

みんなでみんなの子どものために

親同士つなががってほしい

人と人とのつながりが薄れていく中で、子育ても孤立化している現代。親同士の輪を大切にしてきた馬場崎瑞恵さんにお話しを伺いました。

多くの意見を取り入れて

子育てに悩む人は多いと思いますが、考え方次第なんですよ。子どもがやんちゃするのも「成長した証」なので、多分子育て中の人の多くは、そう考える余裕が持てないのではないのでしょうか。考え方を変えるには、別の視点で見ることが必要ですが、それは親と子1対1ではなかなか難しいと思います。10人で見れば10通りの見方があり、10通りの子育てがあります。お母さんが1人で、なんでこの子は……って悩んでいても、周りのお母さんから「でもこんなところもあるよ」って言われると、すごくホッとできたり、新しい発見があったりすると思います。だからいろんな人とかかわって、多くの人の意見を聞いてもらいたいですね。

完べきな親なんていない

「たんたん」では、ノーバディーズ・パーフェクト(＝完べきな親なんていない)



「たんたん」ではNPなどの行事のほか、ふれあい交流サロン「おやこっこ」を毎月第2・第4日10時～15時、田川市の猪位金幼稚園(休園)で運営中。見学大歓迎です。一度遊びに来てみませんか。図代表馬場崎さん ☎45-4003

プログラム(NP)というワークショップを、平成18年度から毎年開催しています。NPの特徴は、事前に参加者一人ひとりにインタビューを行い、お母さんたちの要望をプログラムに組み込んでいくため、一方的に聞く講座ではなく、おしゃべりが中心ということ。そのため、参加人数は14人と少人数です。NPは「今のままでいいんだ」と気付いてもらうことが目的。完べきな子育てをしようとして行き詰まっていたお母さんが、自分に合った子育てを見つけ、毎回好評をいただいています。

親同士のつながり

わたしたちがこのNPにこだわるのは、参加者同士の絆が確実に深まるからなんです。少人数でも「地域の親同士をつなげる」ことの効果は、参加者同士の交流がない講座に百人集まることよりも、後々の成果としては高いと、わたしたちは考えています。

人と人とのつながりが希薄化している今、子育てもその風潮があります。わたしはもともと子育てサークルに参加していたのですが、サークルは自分たちで自主的に運営し、みんなで作り上げていくものです。今は、イベントなどにはお客さんとして参加するけど、自主的な活動や人づきあいは面倒という人が増えてきており、残念です。お母さんががんばっている姿は、絶対子どもにも影響するし、自分のためにもなります。また、地域でそういうつながりができれば、子どもが入学しても親同士が知り合いで、一緒にPTA活動ががんばろうとかいうことに発

“いきいき子育てのまち”を目指して

将来を担う子どもたちをはぐくむため、福智町では平成22年度から5年を目標とし「福智町次世代育成支援行動計画(後期計画)」を推進しています。この中で、子育ては「地域全体の課題」と位置づけられ、子育てを地域社会全体で支えるしくみづくりに取り組んでいます。



←計画のダイジェスト版は来月全世帯配布されます。

展していくので、親自身、広い視野で前向きな子育てができると思うのです。わたしが「たんたん」の代表になったのも、恩返しみたいな気持ちが強かったのですが、NPの受講者も、次の年のNPで積極的に託児などの手助けを名乗り出してくれるんです。このような「みんなでみんなの子どものためにやる」という共助意識が、これからの子育てに求められているのではないのでしょうか。

田川地区子育てネットワーク「たんたん」代表
馬場崎 瑞恵さん

子育て中のあなたへ

まずは声に出して誰かに愚痴を言い、人の手を借りましょう。
“子育ては大変なもの”です。

一人で背負い込むのは無理な話なのです。誰かに悩みを聞いてもらうだけで、答えはもらえなくても、今よりもずっと気持ちよくなると思います。

ちょっと勇気を出してみればあなたの相談にのってくれる人はきっといるはず。だから一人で悩まないで。

地域の中で、あなたとお子さんが心地良いと感じる居場所を、ぜひみつけてください。

